

【青少年センター臨時休館のお知らせ】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8月4日(水)～9月12日(日)の期間を臨時休館させていただきます。あわせて該当期間中の主催事業も原則中止となります。

9月13日(月)以降につきましては、今後の状況をふまえて、改めて発表いたしますので、当センターホームページ・SNS等でご確認ください。

皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

ただし、受付窓口や電話対応は時間を9時～20時までに変更して対応しています。(TEL 082-228-0447)

講座・イベント情報

オンラインもぐらカフェ “お家でつくる お月見だんご”

Zoomを使ったオンラインワークショップを行います。

- ◆日時 9/4(土)14:00～16:00 ◆場所 ご自宅
- ◆参加費 無料
- ◆定員 5名【先着】小学生は保護者同席。見学のみもOK
- ◆申し込み ①8/30(月)まで
②青少年センターから招待メールと用意してもらった材料等の説明書を送ります。

プロのアナウンサーに学ぶ アナウンス講座 応用編

人前で、話す。伝えるを、極める。

- 日時：10/10(日)、17(日)【全2回】10:00～12:00
※新型コロナウイルスの感染拡大により、当初は9/5.12に実施予定だったものを変更しています。
- 対象：中学生から30歳
- 参加費：無料
- 定員：20人(抽選)
- 申込み：8/15(日)～9/15(水)まで

劇作家のための

第八回中国ブロック劇王決定戦

短編で競う、観客の投票、そして審査員による審査。情熱と才能、プライド、すべてを懸けた戦いがここにある。

- 日時：9/19(日) ※いずれの回も開場は30分前です。
予選Aブロック 10:15
予選Bブロック 14:00
決勝戦 17:45
- チケット：1,500円(当日2,000円)、高校生以下500円
○CoRich チケット予約フォーム
<https://ticket.corich.jp/apply/113880/>
○メール予約 gekioh.chuugoku@gmail.com
件名「チケット予約」として、券種(一般・高校生以下)・鑑賞ブロック・枚数・お名前(ふりがな)・電話番号をお知らせください。

挑戦者たち

※通常、予選A、Bとも上演順は前日のクジ引きで決めますが、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、事前に決定しました。HPをご参照ください。

8/9月の休館日 毎週火曜日(8/3.10.17.24.31.9/7.14.21.28) 祝日の翌日(8/9.11.9/22.24)

＝講座・イベント申し込み方法＝

電話、FAX、E-mailで氏名、年齢、電話番号を添えて青少年センターにお申し込みください。参加費は事業の初回にお持ちください。
TEL/082-228-0447 FAX/082-228-7074 E-mail/y-center@cf.city.hiroshima.jp
※申し込みの際にお知らせいただいた氏名、年齢、連絡先等の個人情報は、当人の許可なく事業以外の目的では使用しません。
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、催しなどが中止となる可能性があります。その際は申込者に直接ご連絡します。
＝お得な情報をいち早く。＝

○公式 LINE



○公式 Facebook



○公式 Twitter



ゴーゴーセイヨウとは今年開館55周年を迎える青少年センターのキャッチフレーズです。

短く濃い夏を満喫！

青少年センターの主催事業開催期間は7/11-8/3の約1か月でした。この間にたくさんの若者たちが夏を満喫。

高校生保育ボランティア入門では、おはなし会を企画運営。緊張の面持ちで、子どもにもその緊張が伝わってしまいましたが、最後には一緒に部屋を走り回るくらいまでなじんでくれた姿にほっこり。コロナ禍でも



インスタンスを保ちながらの貴重な体験ができました。

アナウンス教室基礎編では、将来アナウンスの仕事に興味があるという中学生や、仕事に応用できるかも、という社会人まで幅広い人が参加してくれました。サポートスタッフにも登録してくれる人がいたので、これからのイベント運営でも活躍が期待できそうです。



なごみのラジオカフェ & もぐらカフェでは読書会を行っています。次回は、9/18(土)14:00-16:00

今月のもぐらのおすすめ本 「明子のピアノ」

中村真人著/2020年7月刊/岩波書店

1945年(昭和20年)8月6日8時15分、ピアノと音楽が大好きな河本明子さんは世界最初の原子爆弾により尊い命が奪われたのです。

我が子を失った両親は悲しみのあまり明子さんが愛用していたピアノの存在すらもなきものにするかのように、弾かれることがないまま16年の月日がたった1961年、明子さんの弟と結婚した紀美子さんの存在をきっかけに再びスポットライトがあたります。

そこから様々な人たちの手で1台のピアノを通して平和のバトンが受け継がれ広がっていくのです。ごくごく普通の少女が「お国のために」という思いに駆られていく戦争の怖さも描かれています。

当たり前で生活できることがいかに素晴らしいことかということ、76年前の広島を知ること、次の世代に伝えていくために私たちができることはなんだろう？と考えてみませんか？

(今月のおすすめ人：もふもふ)

